

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793100124		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームきずな2階		
所在地	福島県田村郡小野町大字谷津作字高山3-5		
自己評価作成日	令和4年11月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある総合病院と緊急時に24時間365日救急搬送を受け入れていただけるように医療協定を結んでいるため安心してお過ごしいただけます。 ・定期的な防災訓練や救急救命訓練を実施し、災害時にも対応できるよう備蓄品の管理を行うことで万が一の際にも対応できるよう備えています。 ・入居者様の笑顔を一番に考え、外出ができなかったり、思うように面会ができない日々でも塞ぎこんでしまうことのないように、日常生活の中でのレクリエーションや行事を積極的に取り組むことで、楽しみを見つけていただけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と頑張り」をモットーとして利用者様に1日の中で1回は声を出して笑っていただけるような関係を築いていけるよう努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出が難しい状況でも馴染みのお店から出前を取ったり、地元の訪問理容を利用したり、地域とつながり一員として交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月に作成している「きずな便り」を運営推進会議書類送付の際に同封して取り組みについて報告しています。また地域で行われる会議に参加した際にもホームの現状報告や入居者様の状況をお伝えしながら理解が得られるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	現在も感染予防のため行えていないため、開催時期に資料を作成し、アンケートや広報誌等を送付することで入居者様が日々生活している雰囲気や風景をお伝えしています。また、同封したアンケートのご意見をもとにホームの改善に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの入居状況や入居者様の様子など定期的に情報を共有している。ホーム内での取組も広報誌を通じて積極的に伝えています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目に見える身体拘束はもちろんのこと無意識に言葉にしてしまう「スピーチロック」に関しても事業所内の研修や会議を通して再確認し、職員同士で気付いたことがあればその都度声掛け適切なケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	対面式の研修が行えない現状のため、リモートや動画研修により勉強しています。スタッフ同士不適切なケアを行っていないか確認しあい防止するように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対面式の研修が出来ない状況なのでリモートや動画研修を行い、スタッフ同士で理解を深めるように報告書を回覧して伝達研修しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解約時共にその都度疑問な点はないか時間をかけて説明しています。又、疑問があればいつでも電話でも説明し理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人と家族と密に連携を取り、コロナ禍で全ての要望を叶えるのは困難ですが、自宅を見に行ったり散歩に出かけたりして、その際に要望を伺い運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は管理者面談を実施して事業所の現状を把握しています。又管理者スタッフとの定期的な面談で現状を把握するようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部リモート研修や資格取得補助などを行い向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	対面式の研修が行えない中、毎月運営法人よりメールで研修内容が届き、定期的に勉強会を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護サービス事業所とはお互いの情報を共有しサービス提供できるよう努めています。また感染対策を少人数での勉強会等に参加しサービスの質の向上を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様や家族様の要望に耳を傾け、お応えできるよう心掛けその方らしい生活を送ることができるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談見学時等に家族の不安や要望を聞き入居後も入居者様の様子をその都度報告し、安心できるような関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からどのようなことに不安がある伺い、どのような支援が必要か見極めるように努めています。また今後必要になるであろうサービスについても提案し一緒に考えるように心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活歴や趣味等を知り尊重してできる事を聞き、一緒に行うことで関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者様の「いつもと違う」繊細な変化に気付き、こちらの判断だけで決めるのではなく家族の意見も聞き共に本人を支えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	県内外問わず感染状況に合わせた感染対策を取りながら、場所、時間等を工夫し面会ができるよう支援しています。面会車両も利用して支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性や性格を考慮しホームでの生活が安心してできるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内の方はお会いする機会もあるためお互いに声を掛け合ったりしています。また手紙や電話で状況を聞くなど関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の話す事や行動に注意し、本人本位のサービスができるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から聞き取り等を行いなるべくこれまでの生活と変わらず落ち着いて過ごせるように配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方に合わせてケース会議などで現状を共有し、日々の変化にも対応できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは面会や電話で意向を聞いています。またケース会議や日々の話し合いでそれぞれの意見を反映し介護計画作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話を大事にして毎日の様子や心身の状態を個別に記録し、気づきやその時の対処法などを共有して介護計画の見直しをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の際に車への移動が難しくなってきた方への介護タクシーの提案や、背が低めの利用者様には乗車の際、踏み台を使用するなど家族や本人のニーズに対応できるように心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の前までは町のボランティアの方を社会福祉協議会などと連携を図り来所して頂いていたが、感染防止のため現在は実施できていない。そのため少しでもホームの中で楽しんでいただけるように担当者を中心に毎月の行事に力を入れています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が今まで通われていた病院へ受診できるよう家族の協力を得ています。また、急な体調不良の際は主治医へ電話相談し指示を仰ぎ適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	運営法人看護師と連携が取れるよう定期的に入居者の情報共有し、かかりつけ医が休診や時間外で合でも適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域にある総合病院と良好な関係を築けており、医療協定を結び緊急搬送も受け入れて頂けます。入院時には情報共有して、退院調整スムーズに行えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に関する本人・家族の意向を書面を用い確認しているが、重症化した場合には考えが変わる事もあるため、場面場面で再確認し医療関係者を含めチームで支援できるよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて定期的に運営法人から指導者が来所し訓練講習を受けています。AEDは1階事務所に設置してあり職員全員が使い方を把握するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップをもとに消防や警察と連携を図り定期的に防災訓練を実施しています。また、職員全員が把握できるようにハザードマップを事業所内の目立つところに掲示しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で気になる事があればお互いに指摘し合い、日常生活において言葉遣いには常に意識して入居者様一人ひとりを尊重することに心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から簡単なものでも自己決定できる機会を設けています。些細なことでも伝えていただけるような働きかけ関係を築いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースに合わせ、どのように過ごしたいか本人様の考えを尊重し、希望に沿えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で着ていた洋服などお持ちいただいて好みの自由な服装ができるように支援しています。また定期的な訪問理容を活用してその人の希望にそった身だしなみができるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	行事を計画する際には利用者様に何が食べたいか聞き、それに伴い野菜の皮むきなど一緒に行っています。また、季節に合った食事や、馴染みのお店から出前を取ることなどで楽しく懐かしい雰囲気になるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量には個別記録に記録して1日の量を確認しています。不足している方には補給できるように支援している。水分はその人に合わせて形状を変えて提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし介助が必要な方には一緒に行くことで口腔内の清潔を保っています。また、義歯を使用している方には義歯洗浄剤を使用して消毒をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中利用者様一人ひとりの排泄の時間帯、習慣に応じて定期的に声掛けをし、トイレでの排泄ができるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症な方には水分補給や歩行運動を勧めて改善に努めています。また、排便チェック表に毎日記録することでその方の排泄状況を把握し便秘の症状に迅速に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回の入浴頻度を目安に、声掛けさせていただき本人様の体調や気分に応じて入浴することができるよう支援しています。また本人様より入浴の希望があった際には臨機応変に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	衣類や寝具の調整をし室温や湿度を定期的に確認しています。居室に設置しているエアコンや加湿器を使用して、利用者様一人ひとりが快適に生活できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は日付、名前、錠剤の数などもスタッフ同士でまた本人の前でも確認をして誤薬防止に努めています。また、薬の内容が変更になった際は申し送りをして情報共有し、効果や副作用に関しては受診記録に記載して職員全員が把握できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や体操などのレクリエーションを通して体を動かして楽しんでいただいています。他に塗り絵をする方や歌番組を楽しまれる方など利用者様がそれぞれ好きなことをする時間も設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バス外出では4月は花見、11月は紅葉狩り等と感染対策しながら実施しています。また、定期受診で家族と外出する際は自宅へ寄ったり一緒にお買い物をしてすることで気分転換しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様より希望があった際には少額でも所持していただきホーム前にある自販機で飲み物を購入しています。基本的には事務所の金庫にてお小遣いをお預かりして、必要なものや本人から頼まれたものは買い物代行しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週決まった曜日に電話をする方がいて居室や事務所ソファにて話できるように支援しています。他にも希望があった際には家族の了承を得てから電話できるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの共有スペースには季節感のある壁画やお花を置いて彩りを工夫しています。また、居室も同様、定期的に換気や手すりなどの消毒を行い快適に過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで塗り絵や刺し子などご自分の趣味を楽しまれる方や、歌が好きの方もいらっしゃるため隣に寄り添い一緒に歌を歌ったりして過ごせるよう場所作りに工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	本人様が自宅で使用していた寝具や家具をお持ちいただくことで慣れない場所でも安心してその人らしい生活を送れるように配慮しています。利用者様一人ひとりが安心できる環境になるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の必要な個所に手すりを設置することで、安全に生活を送り、また、利用者様一人ひとりの身体機能に応じた生活ができるよう工夫しています。		